

ソフト面で高潮対策

県議会議 台風18号で県企業庁

十一月定例県議会は八日、産業労働、地域振興環境の二委員会を開いた。産業労働委では、十月八日の台風18号の高潮により、豊橋市の三河港神野ふ頭でコンテナ約百二十個が押し流された問題について、県企業庁が「企

業との連絡網を作った。災害対策マニュアルを作成したりしたい」と答えた。高潮対策については渡会克明氏(公明)が質問した。県企業庁は、三河港の埋め立て地の高さについて、大潮の干潮時の水面から四層の高さ

に設定していると説明。「今回の高潮は潮位四・五七層に上り、想定を超えたためコンテナ流出が起きた」と述べた。

同庁は「安全のためには埋め立て地の高さを高くすればいいが、

(工事費用と分譲価格の)採算性の面で問題がある」と埋め立て地のかさ上げには難色を示す一方、国、県、豊

橋市で防災対策検討会をつくり、ソフト面での対策を進めていることを明らかにした。

同委では、長坂康正氏(自民)が県営工業用水について「経営難の地場繊維産業界からは、料金の高い工業用水より、地下水を利用したいとの声が上がっている」と指摘。同庁は「国からの補助を確保するなど、工業用水料金が上がらないように努めたい」と答えた。(大村歩)